

【かいしゅうさん】

福島県は、オタネニンジンの日本一の生産地であり、主に会津地域で栽培されています。オタネニンジンは、一般に「薬用人参」や「朝鮮人参」と呼ばれている植物の和名で、古来より薬用植物として珍重されています。

播種から4～6年で根を収穫し、乾物に加工した後、主に香港市場を経由し、東南アジア各地で消費されています。また、2～3年生の生根は、天ぷら等の食材として利用されます。昔から根強い人気があるとともに、近年の健康志向の高まりにより、消費も堅調です。

「かいしゅうさん」(系統名：会系111)は、会津地域で一般に栽培されている「会津在来種」から選抜育成された品種です。その特徴としては、①生育が旺盛である、②根の形がよい、③加工した時の製品の品質が優れている、といった点があげられます。



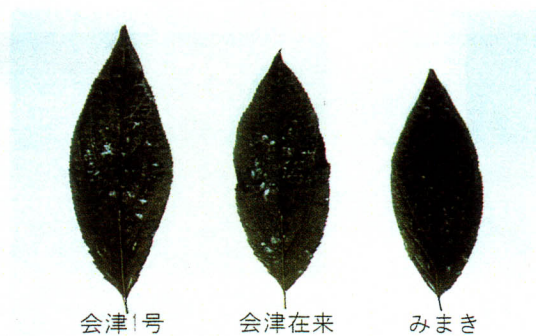
オタネニンジンの栽培状況

直射日光を受けると、葉焼けをおこすため、日覆を設置した中で栽培されます



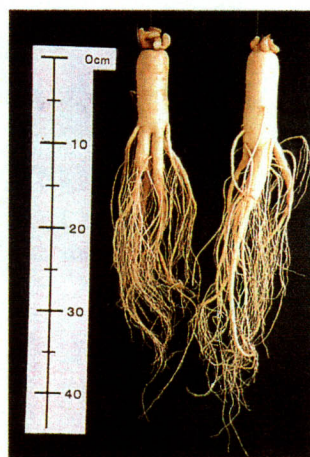
オタネニンジンの生育状況(7月中旬)

茎の頂部に約5枚の小葉のついた複葉を輪生するとともに、花梗の先端に花や実をつけます



「かいしゅうさん」の小葉

(左からかいしゅうさん、会津在来種、みまき)
かいしゅうさんの小葉は、サイズがやや大きく、形が縦長です



「かいしゅうさん」の根

(左:会津在来種 右:かいしゅうさん)
かいしゅうさんは、主根がやや長く、根の形状が優れています